

三木城二の丸跡発掘調査現地説明会資料

1 はじめに

国指定史跡「三木城跡及び付城跡・土塁」のうち、中核をなす三木城本丸跡・二の丸跡について、遺構の確認や整備を行うに当たり、令和4年度から6年度にかけて発掘調査、令和7年度に調査報告書の作成を予定しています。本年度は、三木城二の丸跡の発掘調査を実施しました。

2 調査の概要

(1) 期間

令和4年11月30日～令和5年1月20日

(2) 調査箇所

三木市上の丸町4-5(旧上の丸庁舎跡地)

(3) 面積

約55㎡

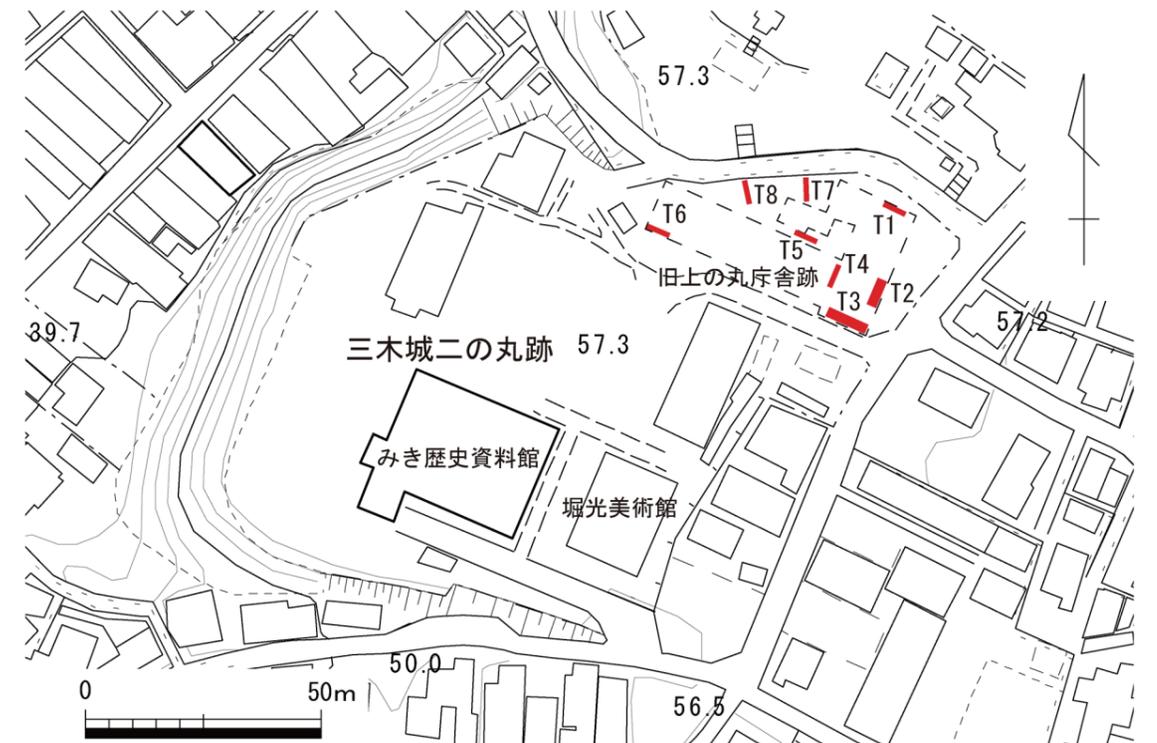
(4) 成果

調査区を8か所設定し、調査を実施したところ、T2・T3において、『播州三木古城図』(江戸時代初期)に描かれている二の丸跡の出入り口となる枡形虎口を形成するL字状の堀が見つかりました。深さは2.4m以上を測ります。T2では堀の北肩が検出され、軒丸瓦など出土しました。特にT3で見つかった堀の幅は10m以上になると考えられます。

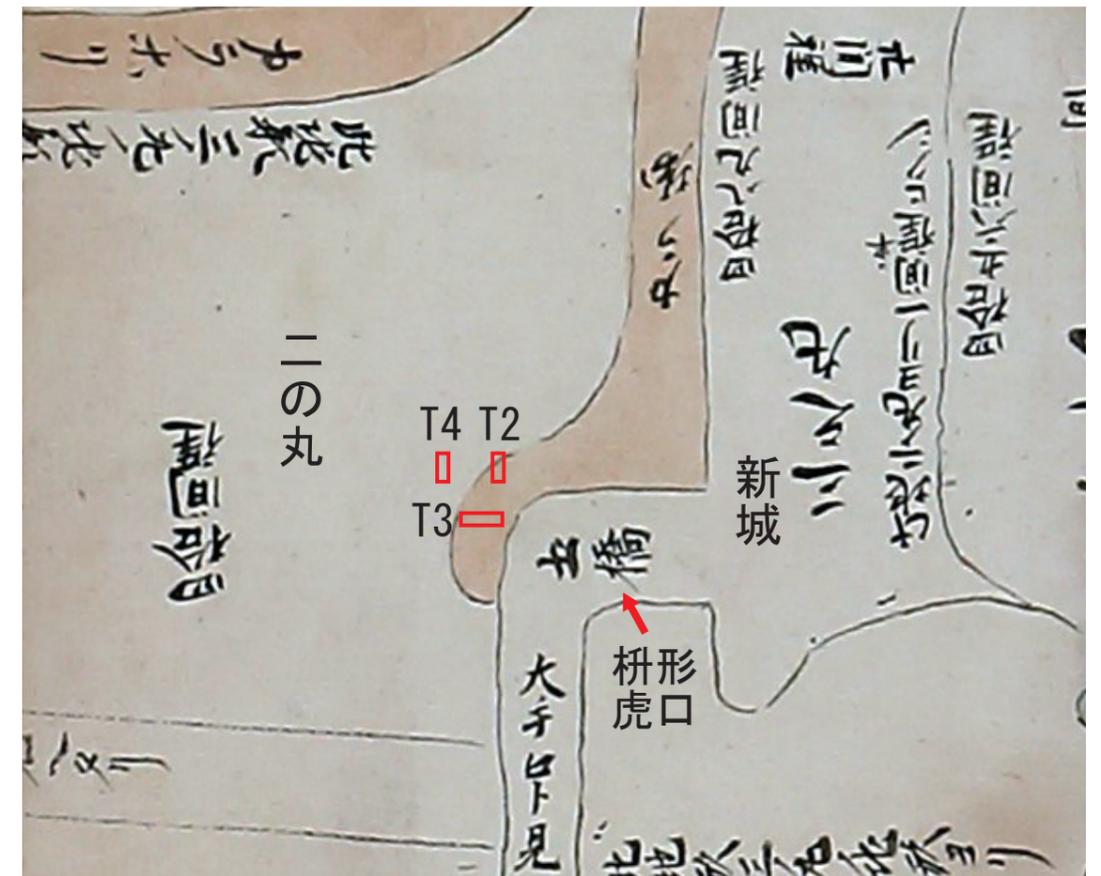
3 まとめ

枡形虎口は、戦国期の播磨の在地城郭には見られず、織田・豊臣系の城郭の特徴であることから、別所氏が城主であった時期ではなく、三木合戦で落城した1580年から一国一城令で廃城となる1615年までの間に改修された可能性が高いとみられます。

石垣ではなく、堀によって枡形虎口が形成されていることから、近世城郭への過渡期の状況を示しているといえます。



調査区配置図



播州三木古城図(三木市立みき歴史資料館蔵)